

第1回 藤沢市立学校通学区域見直し【南部】ワークショップ
開催結果について

- ・開催日時:2024年7月10日(水)午後1時~午後3時
- ・開催場所:藤沢市民会館 第1展示集会ホール
- ・ファシリテーター:徳田 太郎氏(NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー)
- ・ワークショップ参加者:49人 見学者:8人 運営スタッフ:12人 合計69人

○当日配付資料

- ・別添のとおり

議事要旨

1. 開会

- ・第1回ワークショップの進め方、目的についてファシリテーターより説明。
- ・グループ内で自己紹介。

2. 過大規模校の特徴・これまでの経緯・ワークショップの必要性について
資料に沿って事務局から説明。

質疑

(質問) 慣例学区※ができた経緯と、今後について知りたい。

(回答) 新しく学校を設立した時に、児童生徒数の不均衡を調整するために導入したほか、自治会の総意等で、自治会から教育委員会への申出によって慣例学区ができたという経緯があるが、今回の通学区域見直しで廃止したいと考えている。

※慣例学区=本来指定された学校のほか、隣接する特定の学校への通学を教育委員会が認めている地域

(質問) 本ワークショップで議論すべきことは何か？

(回答) 藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画に基づいて通学区域の見直しをするために、皆様からご意見を頂きたいというのが本ワークショップの趣旨である。

(質問) 見直しの際に自治会・町内会を分けないように考慮されているがなぜか？

(回答) 第1期実施計画の作成の際、保護者等にアンケートを行ったが、自治会・町内会を分断しないで欲しいという声があった。また、防災の組織が自治会単位で行われており、避難施設である学校と切り離さないで欲しいという声もあったことから基準に入れていると思うが、絶対ではなく、考慮して通学区域を検討していくということである。

(質問) 現状の通学区域になっている経緯を考える必要があるのでは？

(回答) 過去の経緯があると思うが、今回の見直しにおいては、子どもたちが平等な教育環境で教育を受けられるようにするという観点で検討を行っていきたいと考えている点ご理解いただきたい。

(質問) 計画道路の整備により自治会が分断されるが、その際にはまた通学区域の見直しをするのか？

(回答) 現状考慮できる計画については考慮していきたいが、市内広範囲での通学区域の見直しは影響がかなり大きいものであるため、現時点では新たな道路計画等の度に通学区域の見直しを行うことは考えていない。

(質問) 具体的な過大規模校から周辺校への児童数の配分計画は？

(回答) どれだけの児童を受け入れられるかという受入可能人数は学校によって異なる。周辺校それぞれの受入可能人数に応じた児童数の配分を検討していくことになる。それぞれの学校がどれだけ受け入れ可能なのかというデータは次々回のワークショップで示す予定。

3. 通学区域で重視したいことは？

グループワークを実施。

別添「第1回【南部】ワークショップグループワークまとめ」のとおり。

4. 第2回ワークショップのお知らせ

事務局から第2回【南部】ワークショップの日程について、2024年9月6日(金)午後1時から藤沢市民会館第1展示集会ホールで開催する旨を説明。

また、開催日数日前に改めて事務局から出欠の連絡をする旨を説明。

以上